

## 都市広場における空間構成の一考察

鶴田 佳子, 芦川 智

### A study about the space composition of the city square

Yoshiko TSURUTA and Satoru ASHIKAWA

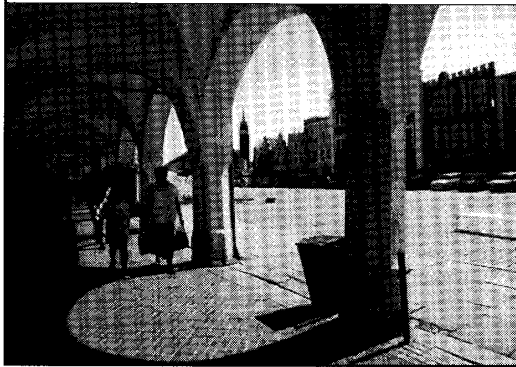
The purpose of this report is to examine the spatial structure of the city squares in Europe area by the design survey. The city squares as the purpose of this study are the space for the people activity. It is difficult to understand the character of space form, because this public space for gathering people has flexibility. Now in this study it takes aim at the 3 elements, the facilities that means architectures have the function, the spaces and the equipments that means the object have the effect on people activity, for example, benches, steps, fountains and so on. This study's data is based on 8 research works at cities in 15 countries, and I selected 100 data for analysis from these research works.

#### 1.対象

本研究では都市広場の形態と人の活動内容との関連性について考察する。具体的には海外の都市広場を対象に1990年から1998年まで、10回に渡り実施してきた都市広場調査のうち8回分の調査データから、ヨーロッパ地域を中心とする15カ国（ドイツ・ポーランド・旧チェコスロバキア・ハンガリー・旧ユーゴスラビア・ルーマニア・ブルガリア・オーストリア・フランス・イタリア・トルコ・ギリシャ・スペイン・ポルトガル・モロッコ）における諸都市のデータを研究対象として取り上げる。この対象である都市広場は、都市の複合機能を兼ね備えた魅力ある空間であり、都市の顔としての役割を果たしてきた。ここで捉える空間とは人によって活用されている屋外公共空間であり、この空間と人との関わりを追う。広場の姿は日々刻々と変化するものであり、多様なシーンが展開される。同じ広場であっても天候や時間、イベント

の有無など様々な要素に作用されるため、人の利用状況から一概に空間の性質を決定することは困難である。そこで逆に広場を構成する人以外の要素、つまり広場を取り囲む施設やしつらえなどある程度変化のないものを対象とし、人の行為を誘因する装置として空間を捉えることによってその特徴を抽出してゆきたい。これら空間構成のデータは調査時に記録したものに文献からの参照を加えたものを基本データとして分析してゆく。調査時に会うシーンは日常の様相のものと祭り等の特別な事象がくり広げられている場合と大きく2種の場面に分かれるが、本論ではその広場の構成を見るにあたり調査時に会った場面を主対象として捉える。つまり、調査時に記録したもののすべて、常設のものだけでなく祭りのための装置など仮設のものまでもその広場の空間構成要素の一つとして捉えてゆく。

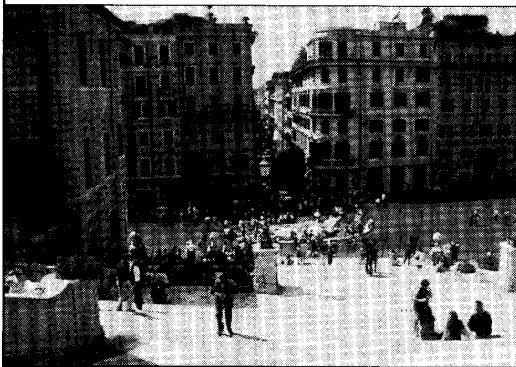
(写真5) アーケード (TELC)



(写真6) 塔 (JIČÍN)



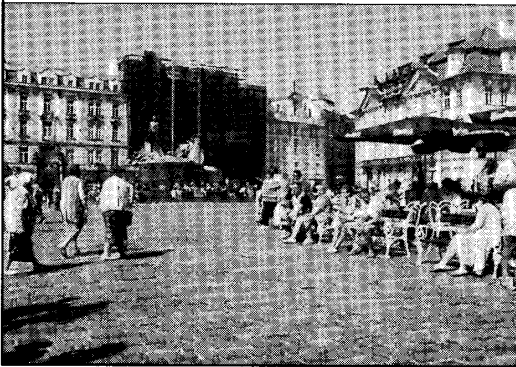
(写真7) 階段 (ROMA)



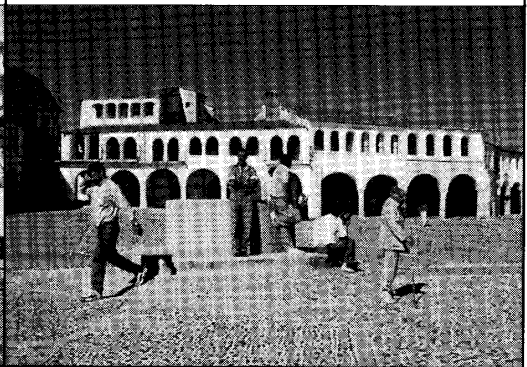
(写真8) 仕掛け時計 (GOSLAR)



(写真9) 銅像とベンチ (PRAHA)



(写真10) 井戸 (GORROVILLAS)



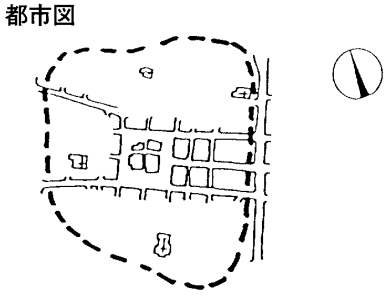
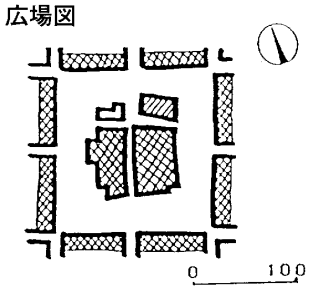
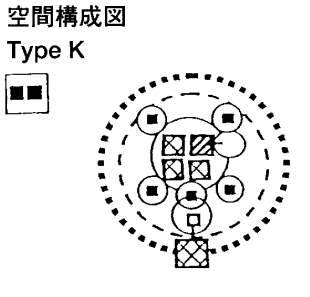

(写真11) 露店 (JIČÍN)



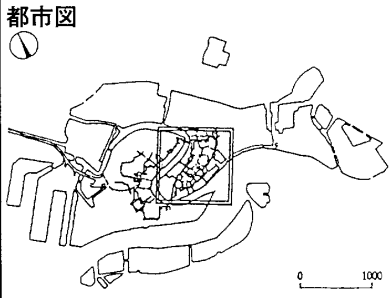
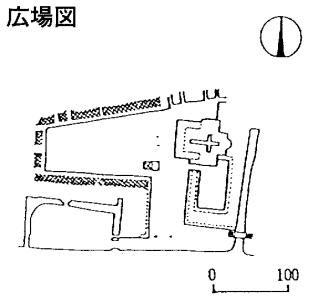
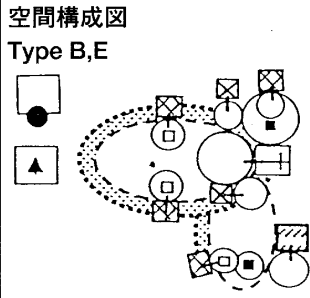

(写真12) オープンカフェ (AACHEN)



データカード 5

CODE : POL-90-03		都市名 : POZNAN
広場名称 : STARY RYNEK		
都市図 	広場図 	空間構成図 Type K 
		施設・装置 市庁舎 商業施設 博物館 銅像 オープンカフェ
		広場機能 商業広場 市庁舎前広場

データカード 6

CODE : ITA-94-013		都市名 : VENEZIA
広場名称 : PIAZZA SAN MARCO		
都市図 	広場図 	空間構成図 Type B,E 
		施設・装置 サン・マルコ寺院 宮殿 博物館 新・旧政庁 商業施設 オープンカフェ 時計塔 鐘楼 アーケード
		広場機能 教会前広場 宮殿前広場 商業広場

データーカード1のSOFIAのALEXANDER NEVSKI広場は教会という施設を中心として形成されている。つまり1つの要素のみで構成された単一的なタイプといえる。データーカード2のAVIGNONのPLACE DU PALAIS (宮殿広場)は宮殿という強い要素が空間に与えている影響が圧倒的であり、他施設の影響空間も内包され、殆ど単一的な構成に近いものである。データーカード3のBARCELONAのREIAL広場は商業機能を有するアーケードに囲まれた空間内にさらにオープンカフェという仮設装置と噴水の常設装置が人を惹きつけるものとして内包され、要素の組み合わせとしては複数合成されたものとなっている。データーカード4のSALEのAQBAEL MEDERSA通りは神学校前に階段状に段差を持ちながら延び、複数の囲まれた空間が連続する平面形態をとっている。データーカード5のPOZNAŃのSTARY RYNEKは、周囲を商業施設に囲まれた大きな空間にさらに施設が複数内包され、それら複数の要素の影響空間をも内包する、複合された構成である。データーカード6のVENEZIAのサンマルコ広場はアーケードに囲まれた空間、サンマルコ寺院や宮殿、鐘楼など複数の施設、装置によって多様な空間が形成され、それらが複合的に組み合わせられ連続した空間を構成している。以上、単一的なものから複合的なものまで6つの事例で見てきたような視点で、他の広場事例についても3要素を基本に構成を検証してゆく。

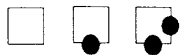

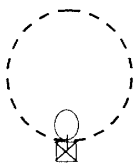

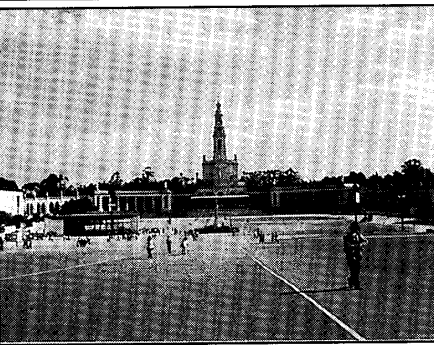
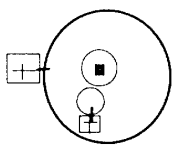


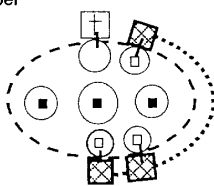


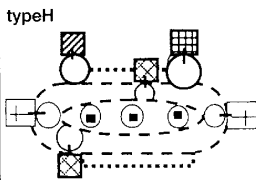


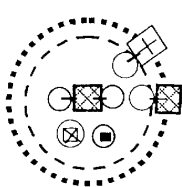
本論では100広場事例を対象に空間構成を検

#### 4.類型化の試み

話し整理を行う。まず対象とする都市広場調査データの中から100事例を取り上げ、広場毎の空間構成を図化する。作図に当たり3要素の内容を記号化し、その成り立ちの特徴からタイプ分類を試みる。3要素の内容は表1に示したよ

うに施設、装置、空間となり、それによる基本的な組み合わせは表2に示したとおりである。各広場の空間構成図をこのような手順で作図した結果、その構成の特徴から11タイプ (type A~K) に分類することができ、さらにその人や空間に対する影響をもつ領域の規模、空間の内部と縁部の構成から特徴を大きく整理すると5グループにまとめることができる。100事例のタイプ別一覧は表3に、11タイプは各タイプ代表的な事例を中心に表4に、5グループの特徴は代表事例の紹介とともに表5にまとめて記述する。100事例のタイプ分けを行ったところ、1事例内に複数のタイプが連携して形成される場合があることがわかり、表3内では空間内に含まれるすべてのタイプを記した。空間構成図事例は、タイプ毎にその簡単な特徴とその空間構成を記号化したものを記載する。

(表5) 5グループの特徴

<p><b>group1:単純系</b></p>		
<p>typeA,B,C</p> <p>I.ITA-97-57 CISTERNINO</p> <p>空間内に影響力のある要素が何もないグループ。代表事例はイタリア南部の都市Cisterninoである。旧市街の中心に位置する広場であるが正面の時計塔以外影響力のある要素はなく、囲まれた空間そのものが大きな特徴となっている。</p>	<p>typeA</p> 	
<p><b>group2:前庭系</b></p>		
<p>typeD</p> <p>10.POR-96-06 FATIMA</p> <p>空間内に影響力のある要素をもたず1つの施設の影響力が大変強く空間がその施設の前庭的性格を有するグループ。事例はポルトガルにおけるカトリックの生地Fatimaである。大聖堂(写真正面)の前が前庭的空間になっている。</p>	<p>typeD</p> 	
<p><b>group3:装置内包系</b></p>		
<p>typeF,E,G</p> <p>10.ITA-94-105 ROMA N.</p> <p>空間内に影響力のある要素、装置があるグループ。事例はRomaのナボナ広場である。空間の意味づけに大きく関わる装置として3つの噴水が内包され空間を構成している。</p>	<p>typeF</p> 	
<p><b>group4:二重構造系</b></p>		
<p>typeH</p> <p>1.ITA-97-57 CISTERNINO</p> <p>空間内に二重に囲まれた空間が存在するグループ。事例はルーマニアのほぼ中央に位置する町の通り広場である。緑に囲まれた広場中央の空間と建物前に沿った歩道部分の二重構造になっている。</p>	<p>typeH</p> 	
<p><b>group5:施設内包系</b></p>		
<p>typeI,J,K</p> <p>3.POL-90-09 KRAKÓW</p> <p>空間内に施設が内包されているグループ。事例はポーランド王国の首都であったKrakowにある中央市場広場である。広場中央の織物会館が空間の意味づけに大きく関わる施設になっている。</p>		

### 5.タイプ分けの検討

次にこの分類された11タイプが空間構成全てのタイプを網羅しているか、検証を試みる。前述の5グループの特徴に見られるように11タイプも広場の内部構造と縁部の構造、つまり影響力をもつ施設や装置の数等、構成要素の組み合わせによって特徴が生じ、その組み合わせから他タイプの可能性を検討した。その結果、表6のような12系列35タイプとなり、既存の11タイプを除くと新たに可能性をもつものは24タイプとなる。表は縦軸に空間の輪郭を形作る周辺施設の影響力の変化をとり、横軸には空間に内包される要素の変化をとった。今までに記述してきた構成図というものはその空間に影響を与える要素の表現であり、さらにグループ分する際にその特徴的な要素、つまり人や空間に与える

機能的、視覚的影響の大きなものに着眼し、その構成形態を記号化した。例えば、縦軸の基本形となっているタイプA,B,Cの三段階を順に追ってゆくとタイプAは周辺施設の影響力が均等、つまり周辺に施設は存在するが空間に及ぼす影響力はどれも同程度の規模であり、特に際だった要素はない、という表記である。表中で影響力という言葉を使用しているがこれは人や空間に何らかの影響を与える力を持っているという意味である。次にタイプBは均等な中に市庁舎のような影響力の強い施設が単数存在するものである。タイプCは例えば市庁舎と教会といった影響力の強い施設が複数存在するタイプを示す。タイプDはタイプBの特殊タイプともいえ、空間に影響のある施設が際だって強い影響力を持ち、空間自体がその施設のための前

表6:タイプ分けの検討

縦軸 周辺要素の影響力の変化		横軸 空間に内包するものの変化			
typeA	周辺要素の影響力が均等	I	II	III	IV
typeB	影響力の強い要素が単数存在	内包するものなし	単数内包	同種複数内包	多種複数内包
typeC	影響力の強い要素が複数存在	内包要素 : 装置(e)・施設(f)・空間(s)			

空間に内包するものの変化		空間に内包するものの変化										
周辺要素の影響力の変化	typeA	typeE	typeF	typeH	5	typeK	10	13	16	19	22	
	typeB	typeD	typeG	typeI	6	8	11	14	17	20	23	
	typeC	1	2	4	7	9	12	15	18	21	24	
	I	I'	I+e	I+f	I+s	I+xe	I+xf	I+xs	I+e+f	I+e+s	I+f+s	I+e+f+s
	単純系	前庭系	装置内包系	施設内包系	二重構造系	装置複数内包系	施設複数内包系	空間複数内包系	装置施設内包系	装置空間内包系	施設空間内包系	多要素内包系
	系列1	系列2	系列3	系列4	系列5	系列6	系列7	系列8	系列9	系列10	系列11	系列12
	I 1	I 2	II 1	II 2	II 3	III 1	III 2	III 3	IV 1	IV 2	IV 3	IV 4
	I	I'(変形)	II			III			IV			
	基本形		基本形+内包要素単数			基本形+内包要素同種複数			基本形+内包要素多種複数			

= 基本形    
 = 既存のタイプ    
 = 可能性のあるタイプ    
 e=装置, f=施設, s=空間

庭的機能を有する場合を示す。これら4タイプを基本形ブロックとし、図を左から右へ追ってゆくと、この基本形の空間に内包される要素が単数加われば2つめの「基本形+内包要素単数」ブロックになり、空間内に内包される要素が3要素のうち同種要素が複数の場合、3つめの「基本形+内包要素同種複数」ブロックになる。図中最も右のブロックは、空間内に内包される要素が多種複数の場合であり、12の組み合わせが考えられる。さて、新たに生じたタイプを1タイプずつ検証するとそれらは既存の11タイプをさらに細分化したものとなり、結果として初めに抽出した11タイプというのは35タイプのうちで特徴的な要素を有するものであるということになる。

## 6.まとめ

都市広場の空間構成を施設、装置、空間の3要素によって表現した結果、11の構成タイプに整理でき、さらにこれを5グループに大きく分類することができた(表5参照)。グループ1単純系は空間を構成する要素が少ないという意味ではなく、小さな影響力をもつ施設や装置が空間をバランスよく構成しており、タイプBは其中で1つの要素が突出し、タイプCでは複数の突出した要素があるという意味である。このグループ1は空間全体で一つのまとまりを有し、全体が人のための空間に設えられている事例が多い。このグループ1を広場構成の基本形と考えるとグループ2はある施設の前庭という機能が強く全面にでている特殊なものであり、明らかにその1機能、つまり限定された人のための空間となる。グループ3、4、5は基本形の空間内にどの要素が内包されるかの相違であり、複数の要素を含むことによって一つの空間内に複数の性格をもつ領域ができ、人への作用も多様となりうる。広場内に車の領域が進入し

た場合、このグループ3、4、5のうちの構成をとり、人のための空間を確保する事例も見られる。

これらグループ毎に構成の違いから人への基本的な影響を考えてきたが、一方でこの空間構成という基本の上に、季節、天候、時間、イベントごとなどが作用し、空間を多様に変化させてゆくこともあり得る。広場空間は常に変化する対象であるとも言えることがここで抽出した5グループ11タイプを基本に変化との関連性も含めて空間の特質をさらに把握してゆきたい。

## 7.おわりに

当初述べた人の活動と空間構成の関連性を考えてみると、構成要素である施設、装置、空間いずれも日常的なシーンからイベントなどの特別な場面での行為に至るまであらゆる活動に対応するものである。いずれの要素も時と場合によりその性格は変化するが、例えば仮設舞台といった元々イベントの為に設えられた装置のように機能が限定され、人の活動をも限定する要素もある。その広場が何のために作られ、存在するのか。例えば週1度の市のために人のための空間が存在し、あとの6日間は駐車場になるものもある。何がその広場の本来の姿なのか、人によって捉え方は異なるであろう。広場の構成を考える際にたまたま遭遇した広場のワンシーンを基礎データとして構成を考えてきたが、この作業を通して多様な広場の少なくとも1つの性格を把握する事ができたと言える。今後、広場空間の性質を明確にするためさらに多くの事例を挙げ11タイプという分類を再検討してゆく次第である。

参考文献

- 1.東欧都市広場形態についての考察－1990年第1回海外都市広場調査報告－，芦川智・鶴田佳子，昭和女子大学学苑第621号，1991
- 2.活動状況図（Activity Map）の表現手法に関する基礎的考察（その4）－広場の形態的把握について（その3）－，芦川智・藤井明・鶴田佳子・武居摂子，日本建築学会大会学術講演梗概集，1991
- 3.活動状況図（Activity Map）の表現手法に関する基礎的考察（その5）－広場の形態的把握について（その4）－，武居摂子・芦川智・藤井明・鶴田佳子，日本建築学会大会学術講演梗概集，1991
- 4.都市広場の造形に関する研究－広場の形態学的把握方法の提案について－，芦川智・鶴田佳子，昭和女子大学大学院生活機構研究科紀要 Vol.1，1991
- 5.東欧都市広場形態の考察－1991年第2回海外都市広場調査結果－，芦川智・鶴田佳子・金子友美，昭和女子大学学苑633号，1992
- 6.東欧都市広場の類型化－活動状況図（Activity Map）の表現手法に関する基礎的考察（その6）－，芦川智・金子友美・鶴田佳子，日本建築学会大会学術講演梗概集，1992
- 7.都市のシンボル性に関する形態学的研究－都市のランドマークと都市広場の概念構成についてのケーススタディー，芦川智・林田ゆみ子・鶴田佳子，昭和女子大学大学院生活機構研究科紀要 Vol.2，1992
- 8.トルコ・ギリシャ都市広場形態についての考察－1992年第3回海外都市広場調査報告－，芦川智・鶴田佳子，昭和女子大学学苑644号，1993
- 9.都市広場の類型化に関する形態学的研究，芦川智・佐藤豊・友田博通・金子友美・鶴田佳子，平成2・3・4年度科学研究費補助金（一般研究C）研究成果報告書，1993
- 10.東欧都市広場の類型化（その2）－活動状況図（Activity Map）の表現手法に関する基礎的考察（その7）－，鶴田佳子・芦川智・金子友美，日本建築学会大会学術講演梗概集，1993
- 11.東欧都市広場の類型化（その3）－活動状況図（Activity Map）の表現手法に関する基礎的考察（その8）－，金子友美・芦川智・鶴田佳子，日本建築学会大会学術講演梗概集，1993
- 12.トルコ都市広場の類型化－活動状況図（Activity Map）の表現手法に関する基礎的考察（その9）－，芦川智・鶴田佳子・小柴美海，日本建築学会大会学術講演梗概集，1994
- 13.トルコの商業空間について－トルコにおける商業空間の現状調査報告－，鶴田佳子・芦川智，日本建築学会大会学術講演梗概集，1995
- 14.都市の道路空間の形態学的研究，芦川智・佐藤豊・金子友美・鶴田佳子，第一住宅建設協会調査研究報告書，1995
- 15.北イタリア都市広場形態についての考察－1994年第6回海外都市広場調査報告－，芦川智・金子友美，昭和女子大学学苑671号，1995
- 16.モロッコの都市空間－旧市街の空間構成における試案－，金子友美・鶴田佳子・田中優香，昭和女子大学国際文化研究所紀要 Vol.2，1995
- 17.モロッコ・ポルトガル・スペイン都市広場形態についての考察－1995年第7回海外都市広場調査報告－，芦川智・金子友美・鶴田佳子・田中優香・横田智美，昭和女子大学学苑683号，1996
- 18.スペイン・ポルトガル・南フランス都市広場形態についての考察－1996年第8回海外都市広場調査報告－，芦川智・金子友美・鶴田佳子・横田智美・美馬陽子・横谷薫，昭和女子大学学苑689号，1997
- 19.南部イタリア都市広場形態についての考察－1997年第9回海外都市広場調査報告－，芦川



- 智・金子友美・鶴田佳子・横田智美, 昭和女子  
大学学苑700号, 1998
- 20.都市と広場の形態学－9回の海外都市広場か  
らの考察－, 芦川智・金子友美・鶴田佳子, 昭  
和女子大学大学院生活機構研究科紀要 Vol.7,  
1998
- 21.都市広場の構成原理の提案, 芦川智・金子友  
美・鶴田佳子・横田智美・高橋真紀・須賀麻実  
子, 昭和女子大学大学院生活機構研究科紀要  
Vol.8, 1999
- 22.中欧地域都市広場形態についての考察－1998  
年第10回海外都市広場調査報告－, 芦川智・金  
子友美・鶴田佳子・横田智美・高橋真紀・須賀  
麻実子, 昭和女子大学学苑715号, 1999
- 23.都市と広場, ポール・ズッカー, 鹿島出版会,  
1975
- 24.広場の造形, カミロ・ジッテ, 鹿島出版会,  
1983
- 25.広場の空間構成, 三浦金作, 鹿島出版会,  
1993
- 26.南欧の広場, 加藤晃規, プロセス・アーキテ  
クチュア, 1990
- 27.S.D.S.第7巻 広場, 新日本法規出版株式会  
社, 1994
- 28.旅の世界史8 広場物語, 朝日新聞社, 1993
- 29.人間のための屋外環境デザイン, クレア・ク  
ーパー・マーカス、キャロライン・フランシス  
編, 鹿島出版会, 1993
- 30.CITIES&PEOPLE, MARK GIROUARD,  
YALE UNIVERSITY PRESS, 1985
- 31.URBAN DEVELOPMENT IN EAST-  
CENTRAL EUROPE: POLAND,  
CZECHOSLOVAKIA, AND HUNGARY,  
E.A.GUTKIND, A DIVISION OF  
MACMILLAN PUBLISHING CO.,INC., 1972
- 32.URBAN DEVELOPMENT IN CENTRAL  
EUROPE, E.A.GUTKIND, A DIVISION OF  
MACMILLAN PUBLISHING CO.,INC., 1964
- 33.URBAN DEVELOPMENT IN EASTERN  
EUROPE: BULGARIA, ROMANIA, AND THE  
U.S.S.R., E.A.GUTKIND, A DIVISION OF  
MACMILLAN PUBLISHING CO.,INC., 1972
- 34.URBAN DEVELOPMENT IN SOUTHERN  
EUROPE: ITALY AND GREECE,  
E.A.GUTKIND, A DIVISION OF  
MACMILLAN PUBLISHING CO.,INC., 1969
- 35.URBAN DEVELOPMENT IN SOUTHERN  
EUROPE: SPAIN AND PORTUGAL,  
E.A.GUTKIND, THE FREE PRESS, 1967
- 36.URBAN DEVELOPMENT IN WESTERN  
EUROPE: FRANCE AND BELGIUM,  
E.A.GUTKIND, THE FREE PRESS, 1970